

インターバンクの声（2014年10月9日）

昨日、東京市場のドル円相場は、108円台前半から107円台後半に値を下げているが、国内投資筋からの買いもあって底割れはなかった。また、一部ではGPIFからのフローも流れていたとの憶測もあった。また、ニューヨーク市場では、特段大きなヘッドラインがない中、米債利回りの上昇と歩調を合わせる形で108円台後半までじりじりと上昇したものの、公表されたFOMC議事録が、世界経済減速リスク、ドル高が低インフレをもたらす可能性を指摘する記述があったためドル円は反落した。

さて、本日は豪州雇用統計の発表がある。昨日の東京時間、「AUSTRALIA STATISTICS BUREAU TO REVISE JULY, AUGUST JOBS DATA」とのヘッドラインが流れると、豪ドルが弱含む場面もあり、修正分を含めた雇用統計には気を付けておきたい。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。